

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : ベルビューカレッジ

留学期間 : 平成 27 年 9 月 12 日 ~ 平成 28 年 8 月 15 日

IBP グローバル奨学生として 1 年間留学したベルビューカレッジでは、主に国際ビジネスと国連を現地学生と共に学んだ。

・コンサルティングの授業では、あるビール醸造所の認知度と売上げを上げるため、3 か月のプロジェクトに携わった。6 名のチームメンバーのうち、唯一のノンネイティブである私は、会議やクライアントの話の内容を十分に理解するのに大変苦労した。しかし、毎会議の議事録は率先して自分でとり、不足している部分をメンバーに聞き付け加えてもらうなど、自分の意見を主張し、対等に議論に参加することに努めた。さらに 130 社の競合会社の位置や規模の大きさのデータを作成し、提案書作成に大いに役に立つことができた。

・ニューヨークの模擬国連にヨルダン代表として、国連総会第一委員会に出席した。5 日間で、世界各国から来た 400 名の代表者と、「国際安全に対する国際犯罪組織の脅威」について、自分の国の立場を踏まえて議論した。最終的には、中東諸国やその他の国の代表者、10 名と協力し、5 ページに渡る決議案を書き上げた。

・留学中には、NAAAP-Seattle で 5 か月間、また、World Trade Center of Tacoma で 3 か月間インターンシップを行った。この 2 つのインターンシップは、様々なイベントに参加したり、担当者に話しかけたり、自分なりに行動した結果が実を結び、インターンシップができる運びとなった。前者はアジア系アメリカ人のプロフェッショナル向けで、ネットワーキングや講演会を通じて支援する NPO 団体であった。私はイベント会場のリサーチ、NPO 割引の交渉、スポンサーの募集に尽力した。やはり、当初は英語に困難を感じることがあったが、最後には日本人学生とシアトルで活躍しているアジア系アメリカ人のプロフェッショナルとのネットワーキングイベントを企画・開催し、約 60 名に参加してもらった。団体では唯一のノンネイティブスピーカー・学生であったが、どのように組織に貢献すればいいのかということを常に考え続け、実行することができた。

ワールドトレードセンターでは、新しくできるショッピングモール、住宅施設の資金獲得に向け、中国人投資家向け案内書の作成をした。建設によって与える環境的、社会的影響を調査し、中国人投資家がイメージしやすい案内書作成を心がけた。また、土壌侵食防止の木材チップの特許を持つ会社に、冬の間は南半球にある国に輸出することでビジネスを拡大できるという提案書を、リサーチで得た情報を元に作成した。アメリカの会社で実際に働く経験をしたことは、自信につながった。

・ハーバード大学の学生が運営をし、世界的に有名な国際会議の HPAIR に合格し、8 月に香港で外交・政府パネルに出席した。会議中には元外交官やノーベル平和賞受賞など、世界でご活躍している方からも話を聞く機会があり、自分の世界が広がったのを実感した。さらに会議中に行われたインパクトチャレンジという大会では、チームを優勝に導くことができた。これは、パネルごとに行われる大会で、私の外交・政府パネルでは、中国政府がミャンマーに作ったダムがもたらす政治的・社会的・環境的・文化的な問題にどのようにアプローチすればいいのか、という提言書を作成するというものであった。様々な背景を持つ違う国のメンバーとの議論はぶつかり合うこともあったが、違う背景を持つからこそ、提案書に多様性を反映することができたと思う。留学の締めくりに、優勝という光栄な結果に終わったことはとても嬉しく感じた。

・授業以外には、日本人 1 人で現地のバレーボールチームに飛び込んだ。小さな大会では準優勝をすることができた。また、留学中にはニューヨーク・トロント・ミネソタ・アリゾナに旅行に出かけたりした。特に思い出深いのは、ミネソタに旅行し、母親の元ホストファミリーに会いに行ったことである。母親のホストファミリーと母親が 20 年ぶりにスカイプで会話して思い出話を花を咲かせているのを見ると感慨深いものであった。

・この 1 年間のシアトル留学は間違いなく私の人生にとって必要不可欠なものであったと思う。1 年の中国交換留学を終えた後にすぐに出発だったので、留学に対する不安やモチベーションの維持の仕方など、不安要素は存在したが、現地に行くとそのような心配は必要なく、様々な出会いやチャンスに恵まれた。また、自分の将来について模索している途中であったが、この留学を通して、その道が少しずつ明らかになったと感じた。幼少期台湾に住んでいたことから日中間関係に興味をもち、国際関係を主に専攻としていたが、どのように専攻とお仕事をリンクさせるかずっと考えていた。ビジネスを学んだことや、HPAIR に参加したことにより、国際関係に貢献できるのは、外交官等のみではなく、民間企業でも役割を果たせるのではないかと思ひ至り、現在はコンサル・金融・メーカー等を志望している。この留学で学んだ知識や、得た経験は、将来日本社会、国際関係に貢献する際に、役に立つものになると強く思う。

・最後に、これから留学を考えている方にひとつアドバイスをするとするならば、留学の学びは外にあるということだ。もちろん座学で学んだこともたくさんあるが、私は外で学んだことがたくさんあった。外にいれば、どこでどんな出会い・チャンスがあるか分からないし、それらがどこに繋がっていくのか分からないからだ。常にアンテナを広くはり、面白そうなことには、とりあえずやってみるという気持ちでいれば、様々なことが経験することができるのではないと思う。